

取扱説明書



UHF ワイヤレスアンプシステム ATW-SP717M/P



お買い上げありがとうございます。
ご使用前にこちらの説明書を必ずお読みください。また保証書と
一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

別売：単2形アルカリ乾電池×8（ワイヤレスアンプ用）

ATW-SP717M/P システム内容

ワイヤレスアンプ ATW-SP717M/P

別売 用途に合わせてお選びください。

ワイヤレスマイクロホン（ハンドヘルドタイプ）
ATW-T705/P ￥40,000.（税抜）

ワイヤレストランスミッター
ATW-T107/P ￥23,000.（税抜）

ワイヤレスレシーバー
ATW-R103/P ￥36,000.（税抜）

ラベリアマイクロホン（クリップタイプ）
AT829H/P ￥8,000.（税抜）

ヘッドウォーンマイクロホン（ヘッドセットタイプ）
PRO8HEW/P ￥8,000.（税抜）

キャリーバッグ
CBG-1 ￥11,000.（税抜）

特長

- 外来ノイズの影響に強いUHF800MHz帯ワイヤレスアンプシステム
- スピーカー・レシーバー・アンプの一体型なので面倒な接続不要で学校や講演、ビジネスなどに最適。最大出力23W（AC電源使用时）
- ワイヤレスアンプの電源はAC100Vもしくは単2形乾電池の2ウェイ室内や屋外など使用場所を選ばない
- ワイヤレスマイク1系統/有線マイク3系統ステレオライン1系統の、MAX5系統ミキシングが可能
- 周波数の切り換えスイッチ付きで状況により設定可能
- ミキサー回路の最適設計により広大なダイナミックレンジと低ノイズ化を実現
- 持ち運びに便利なハンドル付き
- リアパネル(背面)には収納ボックス付きで専用マイク **ATW-T705/P**(別売) 1本を収納可能
- それぞれの入力系統に音質/音量調整機能を装備

目次

△ 注意	2
複数のワイヤレスシステムを使用するには	3
乾電池の入れ方	3
各部の名称と機能	4～7
接続のしかた	8
ワイヤレスマイクロホンの使いかた	8
故障かな？と思う前に	9
外形寸法図	9
テクニカルデータ	裏表紙

⚠ 警告

発熱、損傷、けが、火災、感電、故障などをさけるため下記のことを必ずお守りください。

- 日本国内のAC100V(50/60Hz)の電源で使用してください。
- 異常な音、煙、臭いやコードなどの発熱、損傷などが出したら、やけどしないことを確認した上で速やかに電源プラグを抜き、お買い上げの販売店か、当社の相談窓口までお問い合わせください。
- 電源ケーブルは、無理な力(重たいものをのせる、引っ張るなど)を加えないでください。
万一、本体やケーブルなどが傷ついた時は、交換してください。
- 分解や改造はしないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。

⚠ 注意

発熱、損傷、けが、火災、感電、故障などをさけるため下記のことを必ずお守りください。

- 電源プラグの抜き差しは、必ずプラグ部を持って行なってください。
- アンテナはゆっくりと立ててください。急に立てると目を突いたりする恐れがあり、危険です。
- 持ち運びの際は、持ち運び用ハンドルをしっかり握り、誤って落とさないようご注意ください。足元などに落とすと、けがの原因となります。
- 使用時は、布などでおおわないでください。
- 使用時・保管時は、直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かないでください。
また、火気に近づけたり、水がかからないように注意してください。
- 長時間使用しない時には、電源プラグを抜いてください。長い間保存するときには、機器をビニールなどで包み、湿気を防いでください。

⚠ 乾電池の注意

- 乾電池はアルカリ乾電池をご使用ください。
- 種類の違う電池や、新しい乾電池・古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
- (+) (-)の向きを正しく入れてください。
- 長時間使用しない時には乾電池を外しておいてください。長時間、連続使用された場合は早めに新しい乾電池と交換してください。
- 液もれが起きた場合は、バッテリーケースに付いた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。液が目に入ったときは目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 乾電池を火の中に捨入したり、加熱しないでください。
- 環境保全のため、使用済み乾電池はお住まいの地区の所定の方法で処分するか、乾電池の回収を行なっている販売店にお持ちください。

メンテナンス上の注意

- 汚れたときやほこりが付いた時は電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナーは使用しないでください。コンセント部やプラグ部に接点復活保護液を使用しないでください。

使用上のご注意

- ワイヤレスシステムは自動車のスパークノイズ、照明調光装置、コンピューター、OA機器、電子楽器などの影響を受ける場合があります。影響を受けにくい位置に設置してご使用ください。
- 本製品のワイヤレスシステムは標準規格に基づいて製造されておりますが、他のメーカーとの組み合わせはご使用できません。
- ワイヤレスマイクロホンに使われているUHF帯の電波の特性は波長が短く直進性が強いので、マイクロホンとレシーバー間に障害物があると音切れの原因となる場合があります。直視できるような位置関係でご使用ください。

複数のワイヤレスシステムを使用するには

複数でご使用の際は、各々異なった周波数でご使用ください。

同一の周波数で複数のワイヤレスマイクロホンを使用することはできません。1つの周波数に対してワイヤレスマイクロホンは1本としてください。

* ワイヤレスマイクロホン(別売 **ATW-T705/P**)、
ワイヤレストランスミッター(別売 **ATW-T107/P**)、
ワイヤレスレシーバー(別売り **ATW-R103/P**)
の取り扱い説明書をあわせてお読みください。

* 本製品1台につき1本のワイヤレスマイクロホンが使用可能です。

* 既存モデルの**ATW-SP77**、**ATW-SP88**、**ATW-T70**、**ATW-T17J**、**ATW-R13**をお持ちの方は、右表の周波数表示(B11～B16)をご参照のうえ、チャンネルをあわせてご使用ください。

本体表示	周波数
1	B11 : 806.125MHz
2	B12 : 806.375MHz
3	B13 : 807.125MHz
4	B14 : 807.750MHz
5	B15 : 809.000MHz
6	B16 : 809.500MHz

使用上のご注意

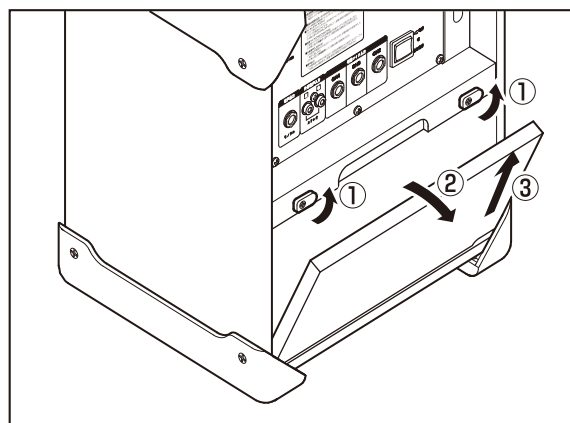
- 同一場所で複数のワイヤレスマイクロホンを使用する場合、必ず各チャンネルごとに異なった周波数セットでご使用ください。
- ワイヤレスマイクロホンと本製品は2m以上、またワイヤレスマイクロホン同士は2m以上離し、近づけない状態でご使用ください。
- B型ワイヤレスマイクロホンシステムの周波数は、電波法により定められております。お近くの別の場所で同じ周波数のワイヤレスマイクロホンシステムが使用されている場合、混信してノイズが入りますので、周波数を切り換えてご使用になるか、電源を切って使用を中止してください。

乾電池の入れかた

1. ワイヤレスアンプの電源を「切」にします。
(6～7ページの「各部の名称と機能」を参照してください)

2. リアカバーを外します。
カバー固定止め金(2ヶ所)を回転させ、リアカバーを外します。

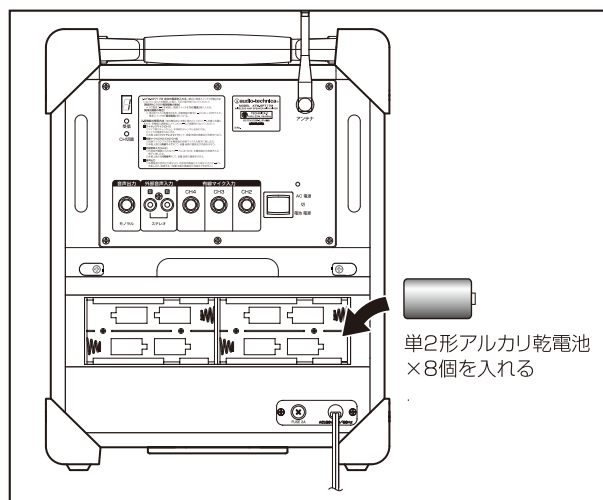
* 図の矢印の順番でリアカバーを取り外してください。



3. 市販の単2型アルカリ乾電池8個をケース内の極性表示にあわせて入れます。

※ 乾電池はアルカリ乾電池をご使用ください。

※ 乾電池の極性を正しく入れないと主要部分を破損する恐れがあります。



4. リアカバーを外す順番と逆にして取り付け、最後にカバー固定止め金(2ヶ所)で閉じて完了です。

※ ご使用中に、本製品(リアパネル)の電源インジケータ(青色)が消灯すると、電池残量がありません。そのまま使用を続けると音切れ・ノイズ音などの症状が発生し、最終的に音声が出なくなりますので、すべて新しい乾電池に交換をお願いします。

各部の名称と機能

トップパネル(上面)

① ワイヤレスマイク 出力レベルボリューム

ワイヤレスマイクロホンの出力信号の音量を調整します。※1

② ワイヤレスマイク 消音スイッチ

ワイヤレスマイクロホンの音声を消音します。※2

③ ワイヤレスマイク 音質コントロール(高・低)

ワイヤレスマイクロホンの音質(高音域・低音域バランス)をコントロールします。※3

④ ワイヤレスマイク 入力レベルボリューム

ワイヤレスマイクロホンの入力信号の音量を調整します。※4

⑤ 持ち運び用ハンドル

持ち運びの際に立ててご使用ください。それ以外の場合は、本製品のフロント側・リア側のどちらかに倒し、収納してください。

⑥ 有線マイク 入力レベルボリューム

各チャンネルに対応した有線マイクの入力信号の音量を調整します。※4

⑦ 外部音声 入力レベルボリューム

CDプレーヤーやカセットプレーヤーなどの外部機器の入力信号の音量を調整します。※4

⑧ 外部音声 音質コントロール(高・低)

CDプレーヤーやカセットプレーヤーなどの外部機器の音質(高音域・低音域バランス)をコントロールします。※3

⑨ 有線マイク 音質コントロール(高・低)

各チャンネルに対応した有線マイクの音質(高音域・低音域バランス)をコントロールします。※3

⑩ 有線マイク 消音スイッチ

有線マイクの音声を消音します。※2

⑪ 有線マイク 出力レベルボリューム

各チャンネルに対応した有線マイクの出力信号の音量を調整します。※1

⑫ メイン ボリューム

スピーカーから出力される主音量を調整します。※1

※1

つまみを「大」の方向にスライドさせると音量が大きくなり、「小」方向にスライドさせると音量が小さくなります。
(出荷時は最小位置に設定されています。)

※2

スイッチを押し込むと「入」になり、消音機能が働きます。もう一度押すと「切」になり、消音機能が解除されます。
(出荷時は「切」に設定されています。)

※3

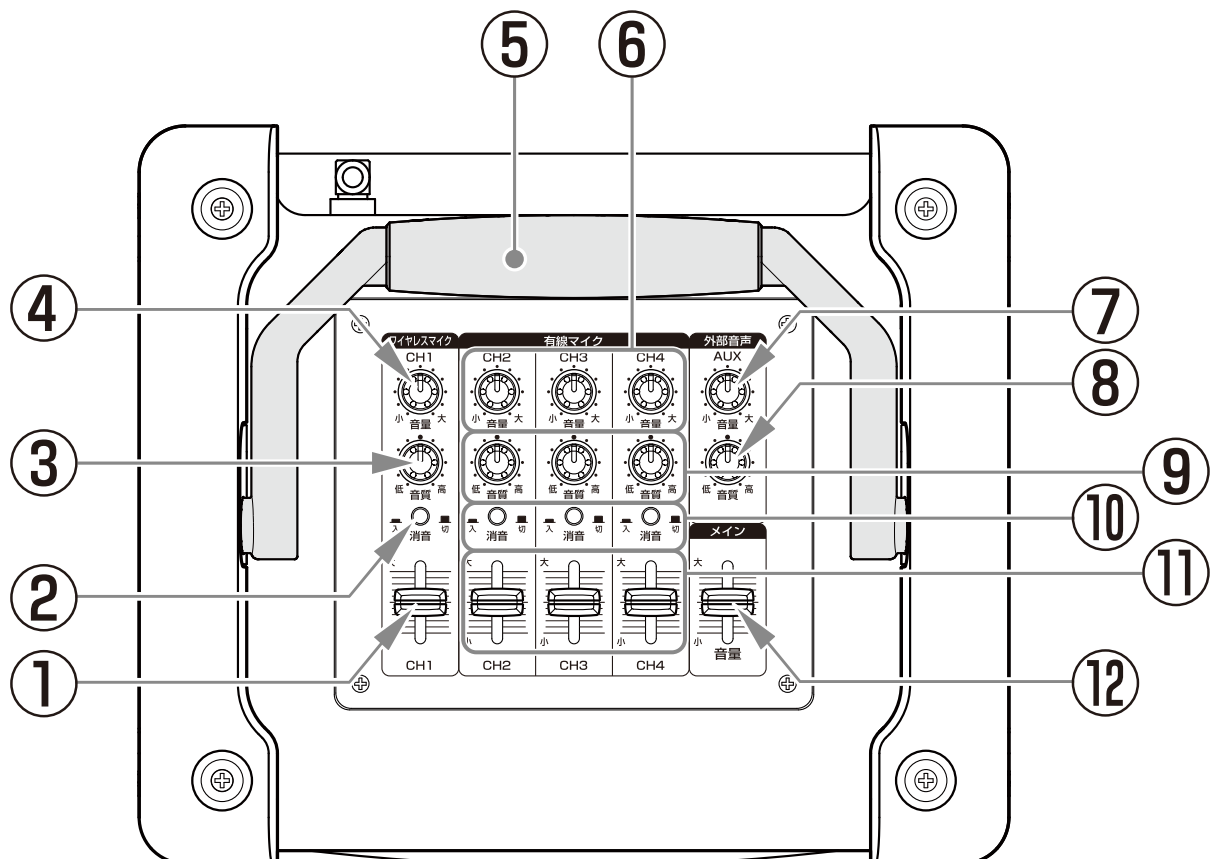
つまみを「高」の方向に回すと高音域が強調され、「低」の方向に回すと低音域が強調されます。センター位置にすることによって、音質がフラットな状態になります。
(出荷時はセンター位置に設定されています。)

※4

つまみを「大」の方向に回すと音量が大きくなり、「小」の方向に回すと音量が小さくなります。
(出荷時は最小位置に設定されています。)

各部の名称と機能

トップパネル(上面)



各部の名称と機能

リアパネル(背面)

① 音声出力端子(モノラル)

本製品の音を録音したい場合などに使用します。
φ6.3モノラル標準プラグケーブルを差し込み、外部機器のライン入力へ接続します。

② 周波数切り替えスイッチ

受信チャンネルを切り換えます。押すと1～6までの範囲で、順方向でチャンネルが切り換わります。

*出荷時の設定は1になっています。

③ 受信インジケーター

ワイヤレスマイクロホンからの電波を受信すると黄色に点灯します。

④ チャンネル表示窓

現在設定されている受信チャンネルを表示します。

⑤ 外部音声入力端子(ステレオ)

CDプレーヤーやカセットプレーヤーなどの外部機器のライン出力から接続します。
形状はRCA型ピンジャックです。

⑥ 有線マイク入力端子

有線マイクを接続するφ6.3モノラル標準ジャックです。

⑦ アンテナ

ワイヤレスマイクロホン使用時は必ず立ててご使用ください。また、未使用時は必ず倒してください。

⑧ 電源インジケーター

乾電池及びAC100Vより電源が供給されると青色に点灯します。

⑨ 電源スイッチ

「AC 電源」側に倒すとAC100Vより電源が供給され、「電池 電源」側に倒すと乾電池から電源が供給されます。「切」にすると電源は切れます。

*出荷時は「切」の状態になっています。

⑩ リアカバー及びカバー固定止め金

固定止め金を回転させるとリアカバーを本体より外せます。

※詳細は3ページの「乾電池の入れかた」をご参照ください

- 電池ケース：単2形アルカリ乾電池を8本収納します。
- マイクロホン収納ボックス
：専用ワイヤレスマイクロホン（別売 ATW-T705/P）を使用しないときに、収納しておくことが可能です。

⑪ AC電源コード(ケーブル長 2m)

家庭用100V、50/60Hzをご使用ください。

⑫ スタンド取り付け穴

φ38対応の市販スピーカースタンドをご使用になる場合の取り付け穴です。

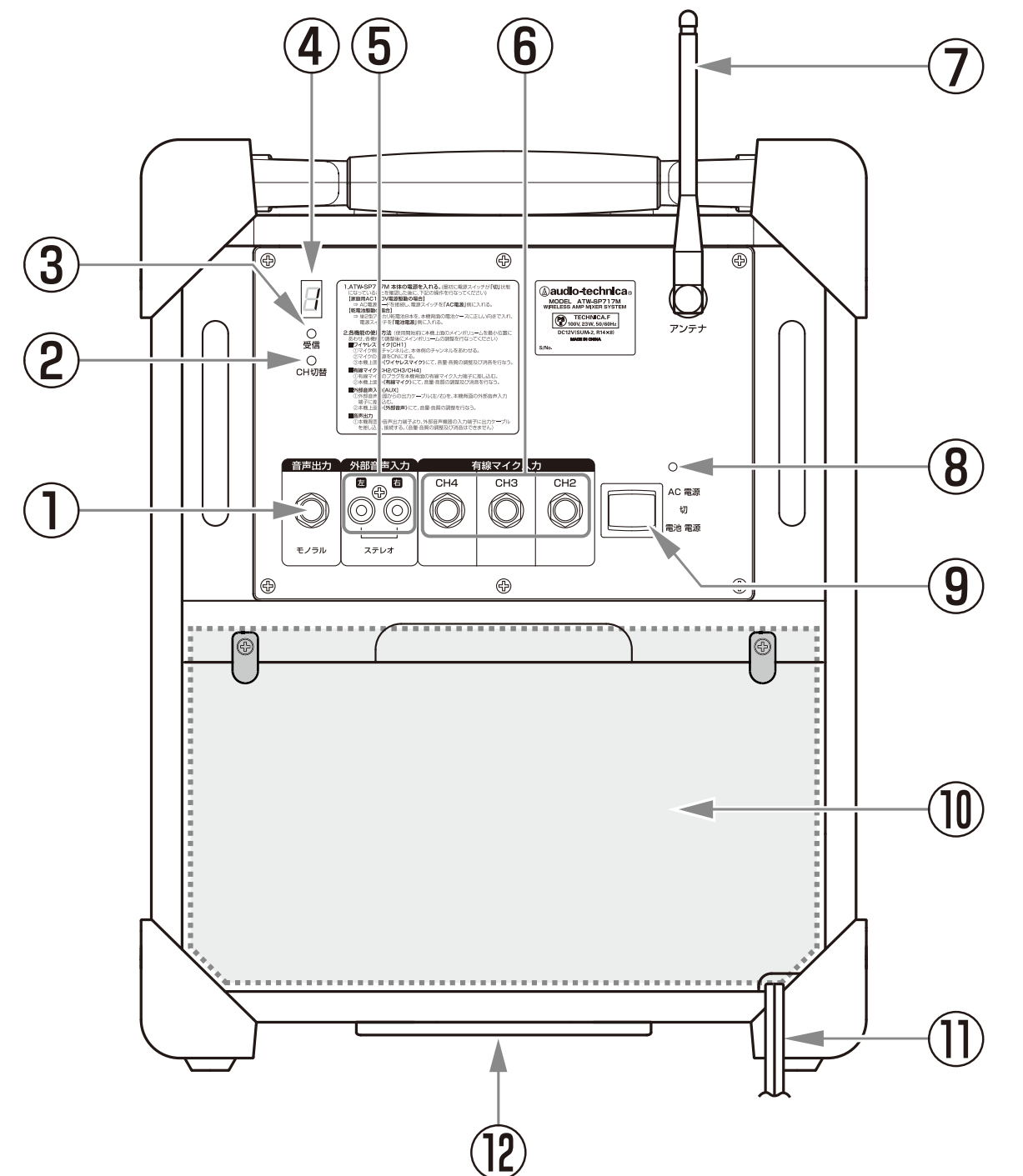
⚠ 注意

使用中の転倒などの事故を防ぐため、ご使用になるスピーカースタンドの取り扱い説明書を必ずよく読んでください。

各ケーブルの接続方法に関しては、8ページの「接続のしかた」を参照ください。

各部の名称と機能

リアパネル(背面)

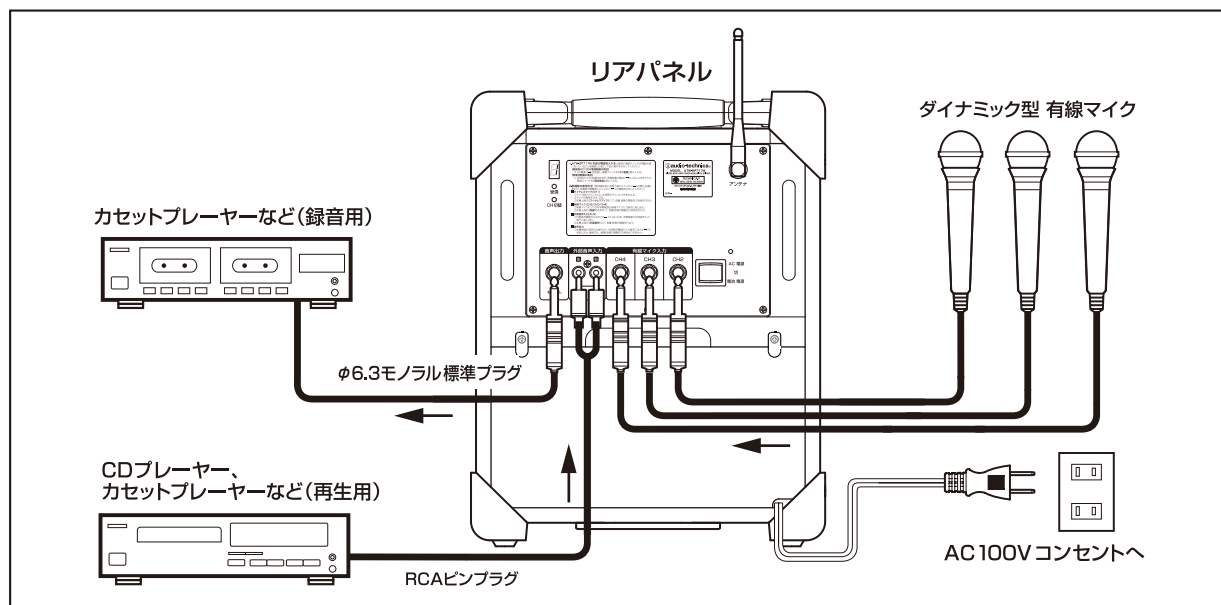


接続のしかた

* 接続機器の取扱説明書をあわせてお読みください。

接続の前に本製品の電源を「切」状態にして、音量ボリュームをすべて最小にし、音質コントロールはセンターポジションにしてください。また、接続機器の音量ボリュームも必ず最小にしてから接続してください。

1. 有線マイクを、有線マイク入力端子に接続します。
* 接続する機器の出力ジャックがφ3.5ジャックの場合は、別売のケーブルまたは変換プラグをご使用ください。
2. 再生用CDプレーヤーやカセットプレーヤーなどを本製品(リアパネル)の外部音声入力端子へ、録音用カセットプレーヤーなどを音声出力端子へ接続します。
3. AC電源コードをAC100Vコンセント口に差し込みます。乾電池をご使用の際は、乾電池を入れてください。



ワイヤレスマイクロホンの使いかた

* ATW-T705/PまたはATW-T107/Pの取扱説明書をあわせてお読みください。

1. アンテナを立てます。
2. ワイヤレスマイクロホン(以下マイク)に電池を入れます。
3. 本製品の電源の「切」状態と、メインボリューム(トップパネル)が絞られている(最小)かを確認します。
4. 電源プラグをコンセント口に差し込みます。もしくは乾電池を入れます。
(「接続のしかた」もしくは3ページの「電池の入れかた」を参照してください)
5. 本製品の電源を入れます。
6. 本製品のチャンネルとマイクのチャンネルをあわせます。
7. マイクの電源スイッチをON側になると本製品(リアパネル)の受信インジケータが点灯(黄色)します。
8. メイン以外の本製品(トップパネル)の音量ボリュームを上げ調整します。
9. 音に歪みがないよう本製品(トップパネル)のメインボリュームを上げ、出力を調整します。

* 本製品とワイヤレスマイクロホンは2m以上離し、近づけない状態でご使用ください。

* 複数のワイヤレスマイクロホンを使用される場合は、3ページの「複数のワイヤレスシステムを使用するには」を参照ください。

故障かな?と思う前に

ワイヤレスアンプの電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから外れていませんか?
- 乾電池使用の場合、乾電池は入っていますか? また、使用している乾電池の残量がなくなっていないですか?
- 電源スイッチが駆動方法にあわせた位置に倒れていますか? [AC電源 / 電池電源]
- ⇒ 3ページの「乾電池の入れかた」と8ページの「接続のしかた」を参照ください

音声が出ない

- 本製品の入力/出力レベルボリューム、またはメインボリュームを絞っていませんか?
- マイクロホンの電源が**OFF**になっていませんか?
- ワイヤレスマイクロホンと本製品のチャンネルがあっていますか?
- 有線マイクのプラグがマイク入力端子から外れていませんか?
- 本製品の消音スイッチが**「入」**になっていませんか?
- ⇒ 4～7ページの「各部の名称と機能」と8ページの「ワイヤレスマイクロホンの使い方」を参照ください

ワイヤレスアンプが受信しない、電波の到達距離が短い

- アンテナを立てていませんか?
- ワイヤレスマイクロホンと本製品のチャンネルがあっていますか?
- ⇒ 4～7ページの「各部の名称と機能」と3ページの「複数のワイヤレスシステムを使用するには」を参照ください
- 本製品及びワイヤレスマイクロホンの電池残量がなくなっていないですか?
- ⇒ 3ページの「乾電池の入れかた」を参照ください
- ⇒ ATW-T705/PまたはATW-T107/Pの取扱説明書をお読みください

外部接続機器の音が出ない

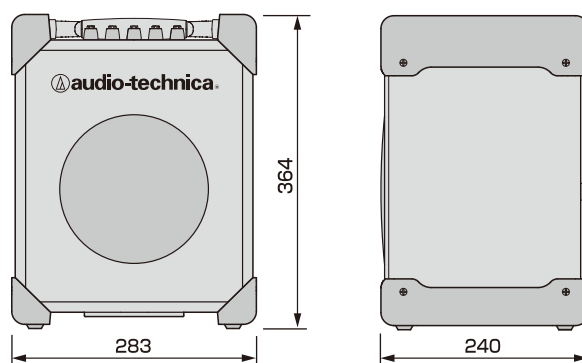
- 接続機器のプラグが外部音声入力端子から外れていませんか?
- 接続した機器は再生モードになっていますか?
- 接続した機器のボリュームを絞っていませんか?
- ⇒ 8ページの「接続のしかた」を参照ください

音が割れる

- 入力信号が大きすぎませんか?
- ⇒ 本製品の入力/出力レベルボリュームを調整し、音量を下げます

音が小さい

- 入力信号が小さすぎませんか?
- ⇒ 本製品の入力/出力レベルボリュームを調整し、音量を上げます



テクニカルデータ

システム総合特性

受信周波数	: 1 (806.125MHz) 2 (806.375MHz) 3 (807.125MHz) 4 (807.750MHz) 5 (809.000MHz) 6 (809.500MHz) の6波から1波をスイッチで選択	周波数特性	: 100Hz～15kHz
		使用温度範囲	: 5℃～45℃

ワイヤレスアンプ ATW-SP717M/P

電源	: AC100V、50/60Hz もしくは 単2形アルカリ乾電池×8本
電池寿命	: 約3時間 (アルカリ乾電池使用時)
消費電力	: 23W
外形寸法	: H364×W283×D240mm
質量 (電池除く)	: 約7.9 kg
対応スピーカースタンド径	: ϕ 38mm

〈ワイヤレスレシーバー部〉

受信方式	: ダブルスーパーヘテロダイン方式 1st IF 45MHz / 2nd IF 10.7MHz
局部発振方式	: 水晶制御PLLシンセサイザー
受信感度	: 21dB μ (SN比: 60dB JIS-A 聴感補正、周波数偏移 $\pm$ 10kHz)
歪率	: 1%以下
出力レベル	: 4.5 dBV (音声出力端子) ($\pm$ 10kHz 周波数偏移 1kHz)
アンテナ	: 1/4 λ ヘリカルアンテナ

〈アンプ部〉

実用最大出力 (AC電源使用時)	: 23 W
実用最大出力 (電池使用時)	: 13 W
SN比	: 65dB (外部音声入力端子)

〈ミキサー部〉

入力インピーダンス	: MIC (CH2・CH3・CH4) 6.8k Ω : 外部音声入力端子 22k Ω : MIC (CH2・CH3・CH4) = -44dBV : 外部音声入力端子 = -10dBV
定格入力	
出力インピーダンス	: 音声出力端子 1k Ω
定格出力	: 音声出力端子 = -10dBV

〈スピーカー部〉

形式	: バスレフ型
スピーカーユニット	: 16cmフルレンジコーン
周波数帯域	: 70Hz～20kHz
最大許容入力 (JEITA)	: 100W
定格入力 (JEITA)	: 50W
出力音圧レベル	: 88dB

(改良などのため予告なく変更することがあります。)

アフターサービスについて

本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。
お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

お問い合わせ先 (電話受付 / 平日9:00～17:30)

商品のお問い合わせや故障・修理のご相談は、お買い上げのお店または当社窓口及びホームページの「サポート」までお願いします。

●相談窓口 (お問い合わせ) ☎ 0120-773-417

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0211)
FAX: 042-739-9120 Eメール: support@audio-technica.co.jp

●サービスセンター (故障・修理) ☎ 0120-887-416

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0212)
FAX: 042-739-9120 Eメール: servicecenter@audio-technica.co.jp

株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市成瀬2206
http://www.audio-technica.co.jp

232303960